

博物館だより

No.2

平成18年6月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

みやこ町歴史民俗博物館 第1回企画展

「みやこの考古学」

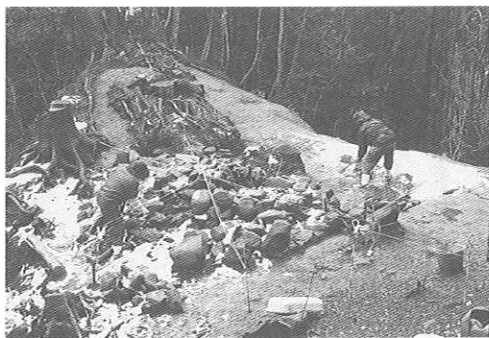
会期 5月30日～7月9日

現在当館では、「みやこ町歴史民俗博物館」としては第1回目となる企画展『みやこの考古学』を開催しています。

みやこ町には、橋塚古墳・綾塚古墳(旧勝山町)、蔵持山修験道遺跡(旧犀川町)、豊前国府・国分寺跡(旧豊津町)など、数多くの貴重な文化財が在ります。今回の企画展では、それら町内の遺跡から出土した遺物約300点を展示します。考古学の視点からみた新町はどんな町でしょうか？
ぜひ、ご来館ください。



橋塚古墳
(みやこ町勝山黒田・6世紀末の方墳)



▲蔵持山(犀川上高屋)集石遺構(12世紀)の調査

■開催期間

平成18年7月9日(日)まで

■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館 展示室

■観覧料

常設展観覧料のみいただきます。

・大人 200円
・高校生以下 100円

■関連行事

「みやこ学講座」

当館学芸員による旧勝山町の文化財についての講演。下記の歴史講座案内をご覧ください。

歴史講座受講生募集!

当館では、「歴史講座」受講生を募集しています。

歴史講座には、漢詩文講座、古典かな講座、古文書講座、初級古文書講座、みやこ学講座の5コースがあります。受講を希望される方は、お気軽に博物館までお問い合わせください。

なお、開催場所はいずれも当館(みやこ町歴史民俗博物館)研修室で、資料代として1回につき実費200円が必要です。

講座の内容

【漢詩文講座】

■講師 宮原加代子先生

■内容 古今東西の漢詩・漢文を鑑賞・学習します。初心者の方も大歓迎です。6月からは緒方清溪著「村上山山伝」などを読み進めます。

■日程 毎月第1木曜日 午前9時30分～

【古典かな講座】

■講師 宮原加代子先生

■内容 日本の古典文学を鑑賞し、手習いをしながら、かな文字の基本を学ぶ講座です。

■日程 毎月第2木曜日 午前9時30分～

【古文書講座】

■講師 当館学芸員 川本英紀

■内容 江戸時代の大庄屋や庄屋の日記などを解読します。「ミミズが這ったような文字」も継続して学べば必ず読めるようになります。

■日程 毎月第2土曜日 午前10時00分～

【初級古文書講座】

■講師 当館学芸員 川本英紀

■内容 古文書解読のイロハを学びます。ゆつくりと講義を進めますので、初めての方でも大丈夫!

■日程 毎月第4金曜日 午前10時00分～

【みやこ学講座】

■講師 当館学芸員および外部講師

■内容 みやこ町を歴史、文化の視点から「知る」ための講座です。

■日程 原則として毎月1回開催。具体的な実施日はその都度お知らせ致します。

6月のみやこ学講座

6月25日(日) 午前10時00分～
当館学芸員 井上信隆
「勝山の文化財」

新しいふるさとの魅力を見つけてみませんか？
みやこの「お宝(文化財)」発見!

「お宝」探しのテーマとキーワード

○テーマ

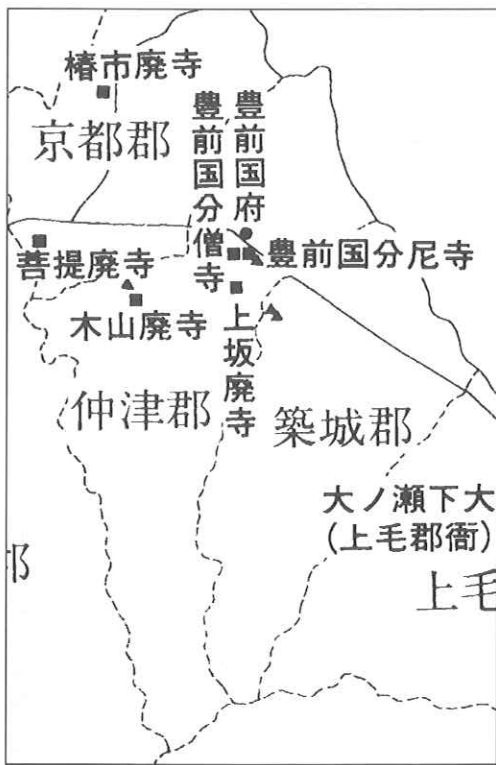
今回取り上げるのは「古代の技術・文化の結晶」ともいわれる遺跡、古代寺院跡です。

○キーワード・参考データ

*古代寺院：6～8世紀に建設されたお寺。お寺の建設には土木・建築の他、冶金・染色など様々な技術が注ぎ込まれます。

またお寺では動行の他に地理学・天文学など様々な学問・研究が行われたため、当時のお寺は一種の「大学」「研究機関」のような施設だったとされています。よって寺院跡の多少はその地の文化の先進度を測る「ものさし」ともなっています。

*豊前国の古代寺院：みやこ町を含む豊前国(福岡県東部・大分県北部)は畿内や大宰府周辺同様、古代寺院跡が数多く確認できます。これはこの地が大陸と畿内を結ぶ大動脈の沿線であることや、朝鮮半島(特に百済)からの移住者が多かったことによるとみられています。



みやこ町周辺の古代寺院分布

○勝山地区



▲善提廃寺塔跡の礎石(心礎) 出べそ状の突起が面白い。

善提廃寺は国道201号線新仲哀トネル勝山出口の北側斜面上に所在します。付近には「最澄が開いたとされる『善提山四十九院』の伝承がありましたが、昭和28年に礎石が発見されて学会の関心を集め、2年後には県の史跡に指定されました。現在、塔・金堂跡と考えられる礎石をみる事ができます。塔の心柱(大黒柱の柱)を支える礎石は出柄式とよばれる形式のもので中央に半球状の「出べそ」が作り出されています。このような礎石はとて珍しく九州では他に例がありません。また金堂跡から出土した瓦の一部に赤い顔料が付着しており、分析の結果ベンガラと確認できたことから当時、金堂は赤く塗られていたことが推測されています。なおこの寺は、その立地から、この頃から流行し始めた「山岳寺院」的な寺院と考えられています。

○川地区



▲木山廃寺輪蔵礎石。昭和49年に出土しました。

今川支流・松坂川右岸の段丘上に所在する木山廃寺は、その寺院や建物の配置等の詳細は不明ですが、寺院の存在を示すものとして塔の礎石や、「輪蔵」と呼ばれる回転式の経巻収蔵施設の礎石が残されています。なお、寺の創建は出土した百済系の瓦から8世紀頃と推定されています。

またこの寺域の推定区域から北西約一キロメートルの山中に福六瓦窯跡があり、この窯跡から、廃寺出土瓦と同種の瓦が出土していることから木山廃寺の瓦がこの窯で焼かれたものであることが確認されました。

当時の寺が窯跡や鍛冶場などの工房とセットで建設されることを証明する事例として注目されています。

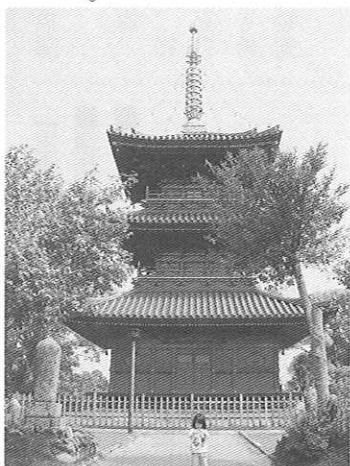
○豊津地区

豊津地区は上坂廃寺・豊前国分寺・国分尼寺の3つの古代寺院が確認されており、みやこ町でも古代寺院跡の集中する地域です。

上坂廃寺は祇川の西岸に所在し昭和58年に発掘調査が行われました。これにより塔・金堂・講堂の位置が判明し、奈良県の法起寺(聖徳太子建立の名刹)と同形式のお寺であることが想定されています。

三重塔で有名な豊前国分寺と国分尼寺は、これまで紹介した寺が在地の豪族が私寺として建立しているのに対して、国立の寺院として造営されました。

国分寺では創建時の遺構として講堂の基壇が確認されるほか、周辺には徳政瓦窯跡、船迫窯跡(築上町)などの寺院建設に関わる工房の遺跡が幾つか確認されており、国分寺の建設が「一大公共事業」であったことを偲ばせています。



▲豊前国分寺三重塔 この地域のシンボルの建物となっています。